

千里国際学園 中等部・高等部

シリーズ

「世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri」

第二回 千里国際学園の英語教育

アドミッション/英語科 井藤 眞由美

こんにちは。第二回目今日は千里国際学園（以下 SIS）での英語教育、言語環境についてお話しします。

<日英バイリンガル環境>

前回の記事でも紹介されているとおり、SISは、関西在住の外国人家庭の子供たちが学ぶ「大阪インターナショナルスクール」(以下 OIS)と、同一キャンパスで、合同の教育を行っています。二つの学校の校舎が分かれているわけではなく、壁があるわけでもなく、教室、図書館、体育館、食堂、運動場などを共有しています。授業も可能な限り多くの授業を合同で行っていますし（後の項目で詳しく説明します）、クラブや生徒会の活動、学園祭やスポーツデイなどの行事も合同で行っています。校内放送やアセンブリー（全校集会）などにも両言語が使用され、印刷物や連絡事項も二つの言語で伝えられ・・・という具合に、日常的に英語と日本語をバランスよく耳にし、目にし、そして使うべき必要に迫られる環境にあります。

校内に一歩足を踏み入ると、日本語と、英語（そして、時にはそれ以外の言語も）が聞こえてきて、生徒たちも SIS の生徒か OIS の生徒かはすぐには区別が付きません。まさに二つの学校が一体となった雰囲気です。初めて学園を訪れてくださる方は、「日本に（大阪に）このような場所があったのですね。」と驚かれることが多く、またアメリカなど英語圏の現地校と土曜日補習校という二つの学校文化を経験してきた帰国生の人たちからは、「海外にいたときの自分のままでいられる環境がある」という声をよく聞きます。

<イマージョンプログラム>

SIS と OIS の生徒が必ずいっしょに受ける授業があります。それは、Art（美術）、Music（音楽）、P.E.（体育）です。P.E.の一部が、安全のためもあり日本語での授業である以外は、授業はすべて英語で行われます。授業の内容もインターナショナルスクールのカリキュラムにそっていますから、日本での標準的な実技科目授業とはずいぶん違います。授業では、基本的にすべてを最初から英語のみで行います。これはイマージョン（どっぷり浸るという意味）教育という言語教育の一手法で、SIS ではこの三つの実技科目にお



いて英語イマージョンプログラムを採用しています。英語での教育を受けた経験がない生徒たちは、中学一年生の最初には大きな戸惑いを感じることもあるようですが、英語の授業と、学校全体のバイリンガル環境とで、最初の一学期が終わるころにはすっかり落ち着

いて過ごせるようになっていきます。言われることがわかるようになって少しずつ自分の発言もできるようになっていく様子は頼もしいものです。逆に、海外で英語をつかってこれらの授業を受けてきた生徒たちにとっては、スムーズにその続きを学べる喜びがあるようです。

現在は、「情報」「世界史」なども SIS と OIS の生徒が合同で授業を受ける場合は英語を授業言語としています。

< SIS での英語：現地校出身の場合 >

中学生の場合、英語の授業は、プレースメントテストの結果により、4つのレベルに分けて行われています。英語で勉強してきた人たちは、そのうち3つのレベルに分かれます（h+, h, i）。一番上のクラス h+ は英語のネイテ